

2021年12月26日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「あなたがたへのしるし」

聖書：ルカによる福音書2：1～20

キリスト誕生の時代、ローマの皇帝アウグストゥスは、占領地である全領土の住民に、「登録せよ」との勅令を出した。人々は皆、登録するためにおのこの自分の町へ旅立った。この住民登録は、何のために成されたのか。1つは、身元調査のため。誰がどこの出身でどういう人かを知るため政府に歯向かう者を捕まえやすくするためのもの。もう一つは、税金を集めるための台帳を作り。すなわち全ては、皇帝のため、国家のための住民登録であった。そういう現実社会の権力がはびこるただ中にイエス・キリストの誕生物語は記されている。

この旅は身重のマリアにとってどれだけ大変なことだったか。その他にも、お年寄りや幼い子ども、病人や障がいのある人たちも同様であろう。国家のため、皇帝のために、弱い者が苦しめられた。

ヨセフとマリアは、やっと生まれ故郷ベツレヘムに着いたが、「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」と聖書は記す。若い夫婦は、安心できる居場所が与えられず、雨露を防ぐためだけの家畜小屋に向かう。そこは、暗く、寒く、人間が宿るにはあまりにも辛い場所。マリアは月が満ち、キリストは生まれた。でも何故、神の子がこのような場所で生まれなければならなかったのか？ この後、羊飼いたちはキリストに出会っていく。羊飼いと人たちは、当時もっとも貧しい階層に位置する人々で、住民登録の最中にありながら彼らには関係のないことだった。それは人間扱いされていなかったからである。その彼らがこの世で一番初めにキリストにお会いする。キリストがもし、豪華なお城で誕生していたら、当然ながら羊飼いたちはキリストにお会いすることはなかった。

神の子であるイエス・キリストの誕生が、飼葉おけの中に寝かされていることが、「あなたがたへのしるし」であると言う。それは、今の私たちにも示されていることであると受け止めて行きたい。

2021年ももうすぐ暮れる。私たちは、イザヤ書の預言にあるような「闇は地を覆い／暗黒が国々を包んでいる」（イザヤ 60:2）かのような世界に、今なお置かれているが、その世界のどこにキリストは誕生されておられるのか、思いを馳せながら、キリスト誕生の意義を深めて行きたい。暗闇は決して、暗闇のままで終わるのではない。必ず、「あなたを照らす光は昇り／主の栄光はあなたの上に輝く」（60:1）。希望の光は灯された！それがクリスマスの恵みである。（神谷）